

題名 「発することのできなかつた一言」

氏名 菊間 晴花

「脳梗塞になったから左手が動かんのや。できるかな。」これは、私が金沢朱鷺の苑でデイサーブスに来られた高齢の方とレクリエーションをしている時に、隣に座っていたおばあちゃんからもれた一言だ。それまで体操を楽しくやっていたおばあちゃんが不安そうな表情で言った一言に返す言葉が見つからなかった。口数も減り、左手を右手でさすっているおばあちゃんを見て、かるはずみに「大丈夫ですよ」と言っているものなのかと思った私は、言葉を返すチャンスを失ってしまった。きっとそのとき、おばあちゃんは私が最初に体験した「みんなのできるのに私にはできない。」という不安感でいっぱいだったのだろう。結局、私は何も言えず、そのつぶやきを無視したような形になってしまった。今思えば、何の言葉も返ってこない、それがおばあちゃんの不安をさらに大きくしたのではないかと思う。そのときに「がんばりましょう」の一言があれば、少しの不安を取り除くこと

ができたのでは……と今になって思う。不安を少しでも除いてあげなければいけない、楽しんでもらわなければいけないという場で、さらに不安を大きくしてしまったことを後悔している。

このような思いを相手にさせないために、日頃から困っている人、不安そうにしている人を見かけたなら、少しでもその人の力になれるように優しい声かけをしていきたいと思う。どのような声かけをすればよいか分からなくなった時は、相手の状況を理解し、一人一人にあった言葉を発することが大切なのだろう。

私は、自分のたった一言で人を笑顔にできる、不安を取り除けるといふ人間になり、少しでも社会福祉にこうけんしたいと思う。

題名 「夏祭りの手伝いをして……」

氏名 柳田 英美

私の母は、デイサービスで働いています。そこで私は夏祭りの手伝いをしました。今年の夏祭りはみんなで昼食を作って食べ、ゲームをするというものでした。

昼食のメニューはちらしずし、流しそうめん、フランクフルト、フルーツポンチでした。私はまず、きん糸卵作りを手伝いました。一しよに作った利用者さんは、卵をうすく焼くのも細く切るのも上手でした。だから「いつも料理されているのかな。」と思いました。実はちがいました。その方は車いすに乗られていて、普段はお家の二階にある台所に行けないそうです。料理ができて喜んでおられました。それから、フルーツポンチの仕上げも、私が利用者さんの前でした。炭酸がシュワシュワとなる様子を喜んでもらえると思ったけれど、反応がうすくて少し残念でした。皆さんよく食べておられました。退院したばかりで食欲がないと言っていた方も「いただきます」

の前に食べ始めたくらいでした。

ゲームは、射的、コイン落とし、千本引きをしました。ゲームも色々工夫されていました。射的の的は、利用者さんに色をぬってもらったお化けなどをトイレットペーパーのしんにつけたものでした。千本引きで引いたただ菓子は、その日のおやつになりました。みなさん楽しそうに夏祭りは大成功だったと思います。

私は去年の夏祭りも手伝いました。去年はゲームでずるずる人がいたり、重い認知症の方もいたり、どうしても良いのか分かりませんでした。デイサービスでは曜日により条件がちがうので、考える事が多くて難しいことが分かりました。しかもイベント以外にも大変な事はたくさんあります。

大変な仕事ですが、母達は楽しそうに働いています。それはチームワークが良いからだと思っています。これからも力になるため手伝いにはいっぱい行きたいです。

# 題名「感しやされるよろこび」

氏名 畑 あみ

わたしは、今年の夏休み、お母さんの仕事のデイサービスにお手伝いに行きました。お母さんはいつも朝早く仕事に行き、帰りもおそいので、少しでもお母さんといっしょにいたくて、お手伝いをしようと思いました。

デイサービスのお年よりの方は、とてもやさしくて、わたしが来ると目をキラキラさせて、こっちおいで、ちよっとうち来てと言われ、わたしは人気者になりました。

デイサービスでは、お風呂に入ったり、体そうをしたり、ごはんに歯みがき、トイレのお手伝い、そして楽しみのカラオケやゲームとたくさんさんの事がありました。わたしのお手伝いは、お話し相手がほとんどでしたが、しょく員の方はとてもいそがしそうでした。わたしが当たり前にしている食事やトイレもお年よりの方はお手伝いがないうでできません。かならずつきそってあげてあぶなくないように手伝ってあげていました。それで

もやさしくえ顔でみんなで声をかけあってわらってるのがすてきだなあと思いました。

にん知しようのある方もたくさんいました。同じ事を十回い上しつ問してるおばあちゃん。昔使っていた石けんを思い出して、とられたとおっっているおじいちゃん。歯みがきやトイレの仕方がわからないおばあちゃん。

でも、わたしはお年よりの方に会える毎日がとても楽しかったです。何かしたら「ありがとう」とにっこりわらってくれて、わたしの知らない戦争の話を教えてくれました。学校では習わない事、家でも教えてくれない事をこのデイサービスでお手伝いをして、感しやさされるよろこびを知りました。

そして、わたしはどうしてお母さんがかいこの仕事をがんばるのかわかった気がします。これからは、お母さんをいっぱいおうえんして、わたしも、みんなが安心してくらせるみらいをつくれる人になりたいです。

# 題名 「かい護を学んで」

氏名 杉本 桂俐奈

わたしは2度目のかい護のお仕事体験バスツアーに参加しました。去年参加して、田つるはま高校での手話、車いす体験や、施設での利用者の人たちとゲームをしたのがとても楽しくもっとかい護のことについて知りたいと思ったからです。

今回は田つるはま高校で正しい手あらいの仕方と車いすのかい助、手話を学びました。手あらいの仕方で、毎日必ずしている手あらいなのに、よごれがみえるセンサーで見ると、つめとかによごれがけっこう残っていておどろきました。車いすのかい助では、リクライニングがたの車いすにお母さんを乗せてせまいろう下を通りました。最後の手話でもやさしく、分かりやすく教えてくれたのですぐ覚ええました。高校生にふくし科のみりよくを聞いてみました。手話を覚えられるし、いろんな人とコミュニケーションがとれるのが楽しいと教えてくれました。わたしは人前で話すのが苦手なのでコミュニケーションがとれるのはいいなと思

いました。

次にかほく市にあるお年よりのし設に行きました。食事体験をした後、見学をさせてもらいました。高さのちがう手あらい場が2つあったり、すわったまま入れのお風呂があったり利用者が困らないよういろいろな工夫がしてありました。利用者と玉入れゲームをした後かい護しのお姉さんにかい護しの大変な所を聞きました。利用者の考えていることを分かってあげるということがとてもむずかしいそうです。中にはうまく話せない人もいたので大変だけど、笑顔になってくれるとうれしい気持ちになると教えてくれました。

バスツアーに参加して、高校生もし設の人も利用者もみんな笑顔でした。かい護の仕事は、お世話をするだけじゃなくて人を笑顔にするとてもすてきな仕事だと思いました。